

# 全国協議会 ニュース

発行所  
全国骨髄バンク  
推進連絡協議会  
〒111-91  
東京都浅草郵便局内  
私書箱119号  
TEL 03-3625-7307  
発行責任者  
運営委員長 宮戸征美

郵便振替口座  
東京 5-15754  
銀行口座  
太陽神戸三井銀行  
新宿支店  
普通 5666655

## 骨髄データバンク予算成立 稼動は本年秋ごろか

来年度予算政府原案に  
骨髄データバンク事業関  
連予算が計上されました。  
以下、毎日新聞(一月  
一九日)より抜粋した記  
事を掲載させていただきます。

\* \* \*  
先月(昨年一二月)二  
七日、全国骨髄バンク推  
進連絡協議会のメンバー  
十人が厚生省に集まった。

骨髄バンク設立に向けた  
同省の概算要求二億九千  
万円が大蔵省内示で「ゼ  
ロ査定」となったことを  
知り、復活折衝の前に緊  
急に駆け付けたのだ。

厚生省血液事業対策室  
を訪れた一行は「三年間  
頑張つて、ようやくバン  
クが認められたのに」と  
尾崎新平室長に詰め寄つ  
た。同室長が「見通しは  
明るい。大丈夫です」と  
答えると、メンバーの表  
情が和らいだ。同夜二億  
七千万円が来年度の政府  
予算案に盛り込まれた。

(骨髄バンク組織体系に  
ついて)

骨髄バンクの先駆けと  
なった民間の東海骨髄バ  
ンクの森島泰雄・名古屋  
大助手は「日赤を含んだ  
形となることは評価でき  
るが、バンクの自身はま  
だ煮詰まっていけない」と  
指摘する。

検討の必要な課題の第  
一はドナー募集業務と、  
骨髄採取時に麻酔事故な  
どが起った場合の補償業  
務を、どこが担当するか  
だ。バンクが真に機能す  
るかどうかは、ここにか  
かっている。

全米骨髄バンクは、骨  
髄提供を求める患者の声  
やドナーの体験談などを  
積極的に広報し、企業と  
提携した広告にも取り組  
んでいる。八七年の発足  
からわずか三年で二十万  
人が登録するという成果  
の背景に、こうした活動  
がある。継続的な普及啓  
発活動はドナー確保に不

可欠だ。  
(医療施設の充実につい  
て)

もう一つの課題は、移

## 一〇万人のデータの収集が目標 厚生省予算案の内訳

来年度の厚生省薬務局  
予算は、①医薬品・医療  
機器等対策、②血液等対  
策、③麻薬・覚醒剤等対  
策、④がん対策等となつて  
いる。新規の事業として  
②では骨髄データバンク  
事業二億七〇〇万が計  
上されている。

薬務局が保険医療局と  
共同で行う骨髄移植推進  
事業において目玉となる  
「データバンク登録費」  
(一億九〇〇万円)は、  
昨年十一月の厚生省の  
「骨髄バンクのあり方に  
関する研究班」の報告書  
に基づき、日赤の協力を  
得て、全国規模の多数の  
骨髄提供希望者のHLA

植医療の充実だ。同省の  
調査によると、年間十例  
以上の骨髄移植を実施し  
た施設は全国で約十ヶ所  
しかない。  
ドナー募集開始は今秋  
になる見込み。同協議会  
の宮戸征美・運営委員長  
は「運動は第二幕を迎え  
たばかりだ。移植施設が  
限られた現状では公平性  
広域性は確保できない。  
ドナー確保の支援、移植  
医療施設とスタッフの拡  
充を求める運動を続けた  
い」と話している。

型検査を実施する。将来  
的には一〇万人規模のデ  
ータの収集を目標として  
いる。

同じく「電算処理シス  
テム整備費」(一億六二  
〇〇万円)は骨髄提供希  
望者のHLA型のデータ  
と移植希望者との適合検  
索を効率的に実施する全  
国オンラインシステムの  
設計に要する費用。

一方保健医療局は、骨  
髄移植調査研究費(五〇  
〇〇万円)として、HLA  
型に関してより質の高  
い血清試料の研究開発や  
骨髄細胞の培養に関する  
研究を行うこととしてい  
る。

## クリスマス献血 全国で1,500人が協力

昨年12月22  
日、各地の運  
動グループが  
献血の、特に  
成分献血の重  
要性を訴える  
ため一般市民  
に献血を呼び  
かけるキャン  
ペーンを行っ  
ました。

移動採血車  
を呼んで街頭  
で献血への呼  
びかけを行っ  
たり、献血ルームを利用  
したり、血液センターの  
見学会を行ったり、また  
一部地域では日程が変更  
になったり、各地の取り  
組みのスタイルは様々で  
したが、北は北海道から  
南は九州まで、全国で約  
一五〇〇人の方が献血に  
協力してくれました。

## クリスマス献血実施結果報告

	献血受付 人数	200ml	400ml	成分献血	献血不可 人数	参加 会員数
北海道	35	10	5	15	2	6
東北	272	168	42	28	34	30
いわき	91	60	23	5	3	24
新潟	77	65		12		3
長野	24	2		21	1	
埼玉	149	106	33	4	6	9
東京	124	71	32		21	9
神奈川	157	117	6	16	18	11
北陸	25	16			9	6
名古屋	190	121	39	15	15	22
三重	28			27	1	12
福知山	185	146		37		3
中四国	45	20		25		45
九州	178	96	47	10	25	30

各地の活動の詳細はお  
伝えできませんが、左図  
に各地の献血に協力して  
くれた方の人数を報告し  
ます。

### 衛生主管部局長会議

厚生省、骨髄バンクを説明

厚生省は1月24日、各都道府県及び各政令指定都市の衛生主管部局長を集め、来年度の衛生行政に関わる予算内容を都道府県に対して説明、また重点事項などを伝達、指示しました。

この中で、保健医療局関連では寺松局長が、①高齢化社会の到来と成人病対策、②科学技術の進展、③国際化の進展の三点をキーワードに、健康づくり対策の展開や腎・骨髄移植の推進、感染症対策の充実などを進めることを表明しました。

成人病対策としては、昨年11月に公衆衛生審議会のなかに成人病対策部会を設置した。科学技術の進展として、国民のコンセンサスが得られている腎移植や骨髄移植について推進して行く。来年度は、日赤の協力を得て骨髄データバンク事業を開始することになったとの報告がありました。

\* \* \*

また、厚生省の研究班報告に記載されている「骨髄移植専門委員会」は、委員長を国立病院医療センター院長の高久史磨氏として、公衆衛生審議会の成人病対策部会内に設置されることが1月22日に決定しました。(以上、日本医時新報 No.3 484より掲載)

## 第十三回 日本骨髄移植研究会 骨髄バンクが中心的なテーマに 名古屋で開催

第13回日本骨髄移植研究会が1月25、26日に愛知県産業貿易会館で開催されました。

25日は「サテライト・シンポジウムⅠ—骨髄移植に於ける看護体制、無菌設備ならびに経費等に関する現状と将来」と「サテライト・シンポジウムⅡ—日本に於ける骨髄ドナーバンクならびに非血縁者間骨髄移植の現状と将来」の2つのシンポジウムが行われ、いずれも参加者が三百人を越し、関心の高さが感じられました。

### シンポジウムⅠ

午後一時より行われたサテライト・シンポジウムⅠでは、骨髄移植を行っている医療施設の看護婦の方々より、簡易無菌室を含めた病室の無菌状態の維持とその作業の効率化、また看護スタッフのタイムスケジュールや割り当て等が報告されました。また骨髄移植と化学療法との医療費の比較が行われ、骨髄移植は化学療法に対して3〜4倍

の費用がかかるが、生存期間で治療費を割った平均医療費は骨髄移植の方が低額になるとの報告がありました。

### シンポジウムⅡ

午後四時より行われたサテライト・シンポジウムⅡでは、はじめに座長の森島泰雄先生からシンポジウムの趣旨説明があり、次に「骨髄バンクの現状」と題して、三名の方が発表されました。

厚生省保険医療局疾病対策課の杉原弘晃氏が、昨年六月より検討を進めてきた「骨髄バンク組織に関する研究」の報告書の概要と、骨髄移植専門委員会の設置や関連予算の説明などを行いました。次に名古屋大学の堀部敬三先生が東海骨髄バンクの推移と現状を、また東大の十字猛夫先生が世界の骨髄バンク特に全米骨髄バンク(NMDP)についての説明がありました。

患者の適応基準について二名の方から説明があり、引き続き「骨髄バンクの在り方」特にコーディネーターについて」と題し、三名の方から発表がありました。福岡血液センターの徳永和夫先生がコーディネーター業務を列記説明し、血液センター主体でコーディネーター業務を行う必要性を提言し、また、東海骨髄バンクの山内辰也先生が東海におけるコーディネーターに実際にかかった時間等を説明しました。東大医科研究の浅野茂隆先生が医師側の対応すべき点、特に保険医療施設・スタッフの絶対的な不足等の問題点を指摘しました。最後に大谷さんが東海骨髄バンクの広報担当として、ドナー募集のためのマスメディアを通じてのPR活動の重要性や、効率的なドナー募集の方法の提言などを発表しました。

日本骨髄移植研究会の開催に先立って、25日午前11時より、全国骨髄バンク推進連絡協議会の呼びかけで「意見交換会」特にドナーリクルートに関して」を開催しました。

東大の十字猛夫先生、元石川県血液センター所長服部純一先生らをはじめ、全国各地より骨髄移植専門医師や血液センター関係者、及び各地のボランティアが参加しました。

## —理想とする骨髄バンクを目指して— 意見交換会 ドナーリクルートを中心に 全国協議会主催で、約80名が出席

「と記述されている。日本赤十字社(血液センター)が具体的にどのような業務を担ってくれるのか、提供者の募集、ドナーへの連絡調整、意志確認、及び補償等の業務をしてもらえるならば、報告書にある新たな第三者的組織を設ける必要はないのではないか、などの意見が出されました。また意志登録の段階で骨髄提供についての十分な説明を行う必要があるのかといった討議が行われました。

事前にアンケートにて調査した、全国各地で募集しているドナー希望者数の集計の結果、ドナー登録希望者が約七千五百人、HLA(ヘク拉斯I)検査済みが約三千八百人との報告がありました。

\* \* \*  
翌日26日、全国協議会の第六回運営委員会が国立名古屋病院の会議室で開催されました。この席上

等々の報告がありました。討議の内容の中心は厚生省の研究報告書についてでした。報告書では「日本赤十字社の協力を得て、(骨髄データバンク事業が)実施されるのが適当と考えら

で、意見交換会とシンポジウムの内容を踏まえ討議を行い、厚生省と日本赤十字社への要望書を提出することが決定されました。(第三面掲載記事参照)

# 公的骨髄バンクについての要望書、提出 2月7日、厚生省、日本赤十字社へ

「公的骨髄バンク」を厚生省保険医療局疾病対策課、有川勲課長に、また「骨髄データバンク事業」についての要望書」を日本赤十字社血液事業部企画課、白戸恒勝課長に提出しました。両課長からは、要望書の内容を充分ご検討戴くとの返事を戴きました。

今後とも国民に信頼され、本当に機能する公的骨髄バンクの実現を目指し、要望活動を続けて行きますので、皆様のご理解、ご協力をお願いいたします。

全国骨髄バンク推進連絡協議会では、「骨髄バンク組織に関する研究班」の報告書の内容を充分検討をし、これからの公的骨髄バンクについて意見交換を重ね、この度、要望書を取りまとめました。

去る二月七日、当協議会の宮戸運営委員長以下三名が厚生省と日本赤十字社を訪問し、「公的骨髄バンク」についての要望書」を厚生省保険医療局疾病対策課、有川勲課長に、また「骨髄データバンク事業」を日本赤十字社血液事業部企画課、白戸恒勝課長に提出しました。

以下に厚生省に提出した要望書の項目を掲載します。

一、地域に密着した普及啓発体制をつくり、日本赤十字社（血液センター）を中心とする骨髄ドナー登録受付体制を確立して下さい。

二、提供希望登録から提供同意までの説明と連絡調整（コーディネート）業務は、日本赤十字社（血液センター）が中心に行う体制として下さい。

三、骨髄提供者の人權を守り安心して登録できるように、無過失責任を原則とした万全な補償制度を確立して下さい。また、休暇等を援助する制度をつくって下さい。

四、国民に支えられた事業とするためにも、市民ボランティア団体と密接な連携関係をつくり、国民の意見が充分反映されるものとして下さい。

五、公的骨髄バンクの機能と国民の善意が十分生かされ、骨髄移植を必要とする患者を平等に救うために、骨髄移植医療体制を緊急に充実して下さい。

## 骨髄移植と骨髄バンク

### “骨髄バンク”に関するQ&A

“骨髄バンク”に関するQ&A

全国骨髄バンク推進連絡協議会では、皆様に骨髄移植と、骨髄提供の実際を理解していただくためにパンフレット「骨髄移植と骨髄バンク」についてのQ&A」を作成しました。

HLA型の説明や、骨髄提供までの手続きや、成分献血についての説明もありません。以下にその一部を掲載します。

Q バンクがあれば、HLA型の一致した提供者（ドナー）が見つかる可能性はどのくらいありますか？

A 日本では1万人のバンクがあれば、患者さんの50%に、5万人のバンクでは約80%の患者さんにHLAの適合した方がみつかるかと計算されています。

日本人は民族のばらつきが少なく、遺伝的にも似かよっているため、欧米諸国に比べると、HLA型の一致したドナーの見つかる確率は高いのです。また、日本人と欧米人のHLA型はかなり違って

おり、欧米の骨髄バンクからドナーを見いだせる確率はきわめて低いのです。ですから日本での全国的な骨髄バンクが必要となってくるのです。

Q どんな人が、提供者（ドナー）として、登録ができますか？

A ① 20～54歳の方（16～19歳の方は、登録受付をし、成人に達してからの提供となります。）

② 健康状態が良好な方

③ 数日の休暇が取れる方

④ 提供相手の患者を特定したりせず、移植が必要などあなたにも提供する意志のある方

⑤ 骨髄移植の内容をよく理解した上で、提供する意志が固い方

Q 提供者は入院するのですか？

A 入院していただくことになりません。入院は、骨髄採取前後の健康チェックも必要なので、2泊3日程度、場合によってはもう少し延びることもあります。入

院先は、骨髄採取の経験豊富な病院です。提供者には、血液検査、健康診断、入院等にかかる費用の負担はありません。

Q 提供者（ドナー）に、痛みや危険はないのですか？

A 全身麻酔による事故は、どのような場合でも、一定の確率で起りますので、まったく危険がないとはいえません。国際的に行われた骨髄採取では、約4600例の中で13例の軽度の事故（一過性の不整脈、局所の感染症等）がありました。後遺症

が残るなどの重篤な例は報告されていません。麻酔から覚めると、針を刺した所にある程度痛みがあります。通常、翌日または翌々日には軽快し、退院できます。

体質によっては、針を刺したあとが皮膚に残ることがあります。採取量は骨髄液の5%以下で、1ヶ月以内には再生しますので、採取による骨髄障害はありません。

このパンフレットをご希望の方は、全国協議会か、各地の運動団体までご連絡下さい。

## 成分献血にご協力を

骨髄移植には多くの輸血が必要で、前処置により患者はまったく血液が造り出せない状態になります。この状態でも骨髄移植が行われるのですが、提供者の造血幹細胞が血液を造り始めるまでの間、血小板をはじめとする成分輸血が必要となります。また、感染症予防のため、免疫グロブリン（血液製剤の一種）の投与も行われます。日本骨髄移植研究会でも、各病院で実施され

ている骨髄移植時に成分輸血や血液製剤を用いた症例が多数報告されました。

成分献血は必要な成分だけを採り、赤血球を体に返す献血方法です。一般の全血献血よりもからだにやさしい献血です。

まだ公的骨髄バンクはできていませんが、現在も年間三百例以上の骨髄移植が行われています。骨髄を提供する意志のある方は、ぜひ成分献血にもご協力下さい。

# ニュース・トピックス

\* 公的骨髄バンクの早期実現を求める請願署名提出

昨年より開始しました署名活動にご協力いただきましてありがとうございます。

現在開催中の国会の会期中にこの請願署名を提出致します。今回は各運動グループが地元選出の国会議員に紹介議員になっていただき、国会に提出していただくようお願いする方法を取ります。

現在お手持ちの署名用紙がございましたら早急に、各運動グループか全国協議会までお送りください。

12月13日～3月12日まで 順不同 敬称略

中馬田知子	10,000	草場直子	10,000
関口三郎	10,000	阿原一良	5,000
西村好美 切手	1,061	甲田夕子 礼カ	50X4
遠藤直美 他	2,000	図書券	1,000
匿名	1,000	谷本丹津子	2,000
田中いづみ	2,000	鈴木政彦	99,000
宮崎優子 切手	310	西田泰子	50,000
小松頼子	3,000	匿名	8,000
鈴木明代	10,000	宮崎米子 廣美	5,000
阿原一良	5,000	中嶋一雄	20,000
梅津美紀子	116,842	富沢洋子 切手	6,200
中村トキ子	10,000	阿原一良	5,000
伊藤文子	5,000	森田恵子 切手	692
村上敦子 礼カ	50X6	戸波 香	20,000
浜田千恵 切手	6,200	仲村喜美子	2,000
畑中洋子	5,000	匿名	2,000
田頭盛生	5,000	黒岩輝雄 礼カ	100X1
三瓶和義	50,000		50X9
田中寿美 礼カ	50X25	武蔵台有志	10,000
土屋 信	200,000	江畑里恵子	5,500
宮田信男	20,000	増田展子 礼カ	50X2

## 心からのご寄付をありがとうございました

皆様の暖かい資金援助を  
よろしくお願い致します。  
銀行口座 太陽神戸三井銀行  
雷門支店 普通 5666655  
郵便振替口座 東京 5-15754  
全国骨髄バンク推進連絡協議会

\* 総理府「献血に関する世論調査」結果報告

国民の献血に対する意識を調査し、今後の施策の参考とすることを目的とし、総理府が昨年10月に世論調査を行いました。

全国の三〇〇〇名の方を対象に調査を行い、二二〇九人の方から回答を得ています。

この世論調査の中には骨髄移植に関する調査も含まれています。本文では骨髄移植に関する、3項目の質問事項とその調査結果を紹介いたします。

〈骨髄移植の周知度〉  
白血病などの治療に、腰の骨に針を刺して骨髄液を取り出して輸血する、骨髄

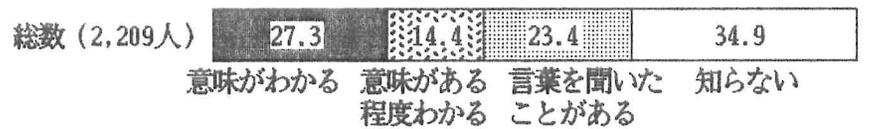
移植が行われているのをごぞんじですか。  
・意味がわかる 27.3%  
・意味がある程度わかる 14.4%  
・言葉聞いたことがある 23.4%  
・知らない 34.9%

〈骨髄移植への協力意向〉  
骨髄移植は白血病などの治療のために、腰の骨に針を刺して骨髄液を取り出すために、3日間くらい入院と麻酔が必要ですが、あなたは協力できると思いますか。  
・いつでも協力できると思う 1.4%  
・都合がつけば協力できると思う 17.3%  
・協力できないと思う 54.1%  
・わからない 9.6%

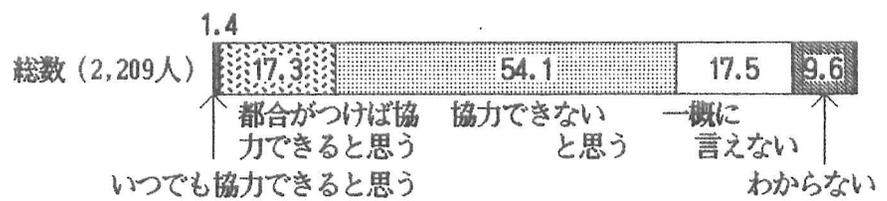
・一概に言えない 17.5%  
・わからない 9.6%

〈骨髄液提供者の登録制度〉  
骨髄移植が一般化するために、骨髄液提供者の登録制度を作ることについてどう思いますか。  
・早急に作る必要がある 11.6%  
・作った方がよい 57.1%  
・作らなくてもよい 4.7%  
・その他 0.2%  
・わからない 26.3%

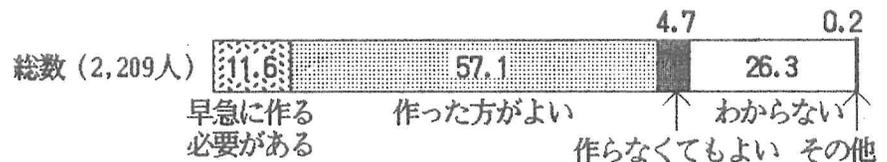
### 骨髄移植の周知度



### 骨髄移植への協力意向



### 骨髄液提供者の登録制度



### 編集後記

厚生省の「骨髄移植専門委員会」が2月末に第一回目の会合が行われました。誰が、どの機関が、どのような業務を行うのか等、具体的な骨髄バンクの体制は、まだ発表されていません。今後の厚生省の委員会の会合で、具体的な内容が決定されて行くことと思えます。

ようやくその輪郭が見えてきた「骨髄バンク」ですが、誰でも安心して提供者となれるよう、また効率よく機能するバンクとするために、私たちは言うべきことは言い、協力できることは協力していく考えです。

\* \* \*

5万人の提供希望者がいれば、約80%の患者にHLAの一致したドナーを見出すことができると計算されています。世論調査では1.4%の方がいつでも協力できるとの結果が出ています。多くの方に骨髄移植と骨髄バンクの必要性を正確に理解してもらえば、5万人の目標は達成できるものと考えます。

一日も早い公的骨髄バンクの設立が望まれます。